



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 日本外科宝函 1937, 14(1)

ISSUE DATE:

1937-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204802>

RIGHT:

ARCHIV
FÜR
JAPANISCHE CHIRURGIE
XIV BAND, 1937

日 本 外 科 寶 函

第 14 卷

昭和 12 年

INOKO-ITO-VEREIN,
KAISERLICHE CHIRURGISCHE UNIVERSITAETSKLINIK.
KYOTO, JAPAN.

京都帝國大學醫學部外科學教室內

日 本 外 科 寶 函 編 輯 室

(猪子・伊藤兩教授記念會)

日本外科實函 第14卷 (昭和12年)

總 目 次

原	著
普通淋菌 _L ワクチン ₇ ガ含有シヤル免疫阻止物質ノ立證 ……………	中 川 觀
第1報 淋菌 _L ワクチン ₇ ヲ以テスル動物體內喰菌作用 _L イムペヂン ₇ 現象 ……………	(1)
第2報 生抗原煮沸時間ト抗原能動力トノ關係 ……………	(12)
第3報 _L アルチゴン ₇ ヲ以テスル海猿流血中喰菌作用 _L イムペヂン ₇ 現象 ……………	(20)
第4報 北研製淋菌感作 _L ワクチン ₇ ヲ以テスル喰菌作用 _L イムペヂン ₇ 現象 ……………	(29)
第5報 北研製淋菌感作 _L ワクチン ₇ 含菌體ヲ以テセル催喰 菌作用 _L イムペヂン ₇ 現象 ……………	(37)
第6報 北研製淋菌感作 _L ワクチン ₇ 生煮兩抗原ガ 大腸菌特殊凝集素血中產生ニ及ボス影響 ……………	(46)
結核菌各種成劑ニ於ケル _L イムペヂン ₇ ノ研究 ……………	辰 井 正 平
第8報 <u>フランクフルト・アム・マイン</u> 獨乙國立實驗治療研究所製無蛋白 _L ツベルクリン ₇ ノ催喰菌作用 _L イムペヂン ₇ 現象……………	(61)
第9報 <u>フランクフルト・アム・マイン</u> 獨乙國立實驗治療研究所製無蛋白 _L ツベ ルクリン ₇ ノ含有スル _L イムペヂン ₇ ノ完全破却ニ必要ナル煮沸時間ニ就テ ……………	(68)
第10報 <u>フランクフルト・アム・マイン</u> 獨乙國立實驗治療研究所製無蛋白 _L ツベル クリン ₇ ノ含有スル _L イムペヂン ₇ ニ依ル抗大腸菌凝集素產生阻止現象 ……………	(77)
第11報 <u>フランクフルト・アム・マイン</u> 獨乙國立實驗治療研究所製無蛋白 _L ツベル クリン ₇ ノ含有スル _L イムペヂン ₇ ニ依ル馬血清特殊沈澱素產生阻止現象……………	(92)
創傷治癒ニ及ボス副腎機能ノ影響ニ就テ ……………	濱 谷 軍 治 (101)
_L ミエローム ₇ ノ _L イムペヂン ₇ 現象	
第1報 _L イムペヂン ₇ ノ立證 附發生原因ニ關スル一考察 大 隈 義 朗 ……………	(171)
肺臟中ニ產生セラレタル抗結核菌抗体ノ研究 ……………	福 富 八 作
第1報 海猿偏側免疫肺臟中ニ產生セラレ タル抗体増容反應ニ依ル立證 ……………	(307)
第2報 結核菌生・煮兩免疫元 0.5 兎ニヨル海猿肺臟內產生増容素量ノ比較 ……………	(317)
第3報 結核菌生・煮免疫元ノ 1.5 兎ニヨル海猿肺臟內產生増容素ノ比較 ……………	(328)
局所皮膚ニ於ケル赤痢抗体ノ產生 ……………	宮 司 克 巳
第1報 赤痢本型菌 _L コクチゲン ₇ 軟膏貼用局所皮膚ニ於ケル	

抗黃色葡萄狀球菌「オプソニン」產生ノ立證	(340)
第2報 抗黃色葡萄狀球菌「オプソニン」ノ局所皮内產生ヲ指標トスル赤痢「イムベ デン」完全破却ニ向ツテノ好適煮沸時間ノ研究	(347)
第3報 局所皮膚「オプソニン」產生ヲ指標トセル「イムベデン」ノ立證並ビニ赤痢本 型菌生濾液ノ含有スル「イムベデン」ノ完全破却ニ必要ナル好適煮沸時間ノ研究	(352)
第4報 赤痢本型菌「コクチゲン」軟膏貼用ニ依 ル局所皮内產生「オプソニン」ノ特殊性	(360)
第5報 赤痢本型菌「コクチゲン」軟膏貼用局 所皮膚ニ於ケル抗毒素產生ニ就テ	(367)
第6報 赤痢本型菌「コクチゲン」軟膏ノ皮膚貼 用ニ依ル抗毒性特殊性全身免疫ノ獲得	(384)
第7報 赤痢本型菌「コクチゲン」軟膏ノ貼用ニ依ツテ血中ニ產生セラレタル 抗毒素ノ特殊性ノ吟味並ビニ赤痢本型菌「コクチゲン」ヲ軟膏トシテ皮膚ニ.....	(417)
貼用シタル場合ト皮下へ注射シタル場合トノ血中抗毒素產生程度ノ比較 創傷治癒ニ及ボス副腎機能ノ影響ニ就テ	濱 谷 軍 治 (476)
肺臓中ニ產生セラレタル抗結核菌抗体ノ研究	福 富 八 作
第4報 肺實質内產生抗結核菌増容素ノ運命ニ就テ	(637)
第5報 肺臓中ニ產生セル増容素ノ菌種特殊性	(644)
創傷治癒ニ及ボス副腎機能ノ影響ニ就テ	濱 谷 軍 治
第3篇 副腎機能ノ消長ト創傷治癒トニ關スル因果關係ニ就テ	(663)
補 遺	(689)
レントゲン線照射時間ト「イムベデン」破却トニ關スル實驗的研究	
第2報 「パラチフス」A菌ノ有スル「イムベデン」破却ガ 抗黃色葡萄狀球菌喰菌現象ニ及ボス影響	石 谷 九 左 衛 門 (695)
第3報 連鎖狀球菌ノ含有スル「イムベデン」破却ガ抗黃色 葡萄狀球菌喰菌現象ニ及ボス影響	(705)
EI-Tor 菌「アナワクチン」ニ於ケル「イムベデン」ノ研究	石 谷 九 左 衛 門 (716)
最大催喰菌作用ヲ指標トセル EI-Tor 菌生・煮兩免疫元ノ比較 石 谷 九 左 衛 門	(729)
急性水腎ノ成立ニ關スル研究補遺	荒 木 省 吾
第1報 急性水腎ニ於ケル「インヂゴカルミン」排泄能力ノ消長ニ就テ	(839)
横隔膜腹膜ニ於ケル Stomata ト淋巴管トノ關係ニ就テ	鄭 準 謨 (876)
淋巴腺實質内ニ於ケル細胞間腔ト淋巴洞並ニ血管トノ交通ニ就テ	鄭 準 謨 (935)
急性水腎ノ成立ニ關スル研究補遺	荒 木 省 吾
第2報 急性水腎ニ於ケル所謂 “ Rückresorption „ニ就テ	(947)

人及ビ哺乳動物ニ於ケル大網及ビ小網ノ淋巴管ニ就テノ研究 鄭 準 謨 (1031)
 急性水腎ノ成立ニ關スル研究補遺……………荒 木 省 吾

第3報 輸尿管ノ一時的結紮ガ腎臟ニ及ボス影響ニ就テ

(1) 腎副血行ヲ破損シタル場合……………荒 木 省 吾 (1045)

健常臟器乃至組織ニ於ケル催喰菌性物質ノ自然的分佈……………荒 木 松 實

第1報 健常家兎表皮ニ就テ……………(1059)

第2報 健常家兎ノ何レノ層ガ催喰菌性物質ヲ含有スルカ……………(1063)

第3報 局所皮膚ノ表皮層ト真皮層トノ浸出液ノ示ス「オプソニン」性質ニ就テ……………(1067)

第4報 健常家兎筋ニ就テ……………(1073)

第5報 健常家兎睪丸ニ就テ……………(1076)

第6報 健常家兎肝臟ニ就テ……………(1079)

第7報 健常家兎脾臟ニ就テ……………(1083)

家鶏粘液肉腫ニ依ル生體內「イムペデン」現象……………岩 城 達

第1報 家鶏粘液肉腫ハ「イムペデン」ヲ含有スルヤ……………(1087)

第2報 健常家鶏筋肉ハ「イムペデン」ヲ含有スルヤ……………(1102)

第3報 健常家兎睪丸ハ「イムペデン」ヲ含有スルヤ……………(1113)

第4報 家鶏粘液肉腫ノ毒力ニ就テ……………(1123)

第5報 家鶏粘液肉腫「イムペデン」ノ完全破却ニ
 必要ナル好適煮沸時間ノ決定……………(1133)

第6報 家鶏粘液肉腫ノ「イムペデン」ハソノ蛋白體側ニ
 アルカ或ハソノ類脂體側ニアルカ……………(1147)

第7報 「エーテル」移行物質除去家鶏粘液肉腫生
 浸出液ノ「イムペデン」破却ニ就テ……………(1154)

第8報 家鶏粘液肉腫水浸出液ヨリ「エーテル」中ヘ移行ス

ル物質ノ抗原性能動力ノ煮沸熱ニ對スル關係……………(1163)

第9報 家鶏粘液肉腫生浸出液、脱脂液及ビ類脂體液ノ
 生・煮ニ依ル抗原性能動力ノ比較……………(1171)

臨 床

總頸動脈結紮症例……………	都 谷 枝 萬 次 郎	(179)
胃腸ノ「レ」線検査(「レ」線寫眞示説)第1回……………	藤 浪 修 一	(503)
胃腸「レ」線寫眞示説……………	藤 浪 修 一	(531)
廻腸末端ノ原發生肉腫2例……………	横 山 正 夫	(744)
胃腸ノ「レ」線検査(「レ」線寫眞示説)第2回……………	藤 浪 修 一	(756)
急性幽門狹窄症ヲ呈シタル1種ノ急性炎衝性胃腫瘍……………	山 田 弘	(884)
同胞3人ニ現ハレタル化骨不全症……………	豊 田 貞 藏	(965)

松果腺部ニ發生セル「メニンジオーム」	荒	木	千	里	(1181)
松果腺腫瘍ノ外科ニ關スル批判的考察	荒	木	千	里	(1193)
食道粘膜皸裂像撮影法及ビ其ノ所見	藤	浪	修	一	(1207)

臨 床 講 義

「ヘルニア」性陰囊水腫並ニ波多腰「ヘルニア」根治手術	鳥	潟	隆	三	(185)
横隔膜假性「ヘルニヤ」	鳥	潟	隆	三	(521)
骨肉腫	鳥	潟	隆	三	(526)
乳癌	鳥	潟	隆	三	(778)
結腸癌	磯	部	喜	右衛門	(785)
甲状腺腫	鳥	潟	隆	三	(889)
痔瘻	鳥	潟	隆	三	(395)
瘰癧	鳥	潟	隆	三	(980)
「フレグモ―ネ」(蜂窩織炎)	鳥	潟	隆	三	(1240)

臨 床 鑽 談

化膿性炎症ノ症狀ヲ呈セル乳兒非化膿性多發性關節炎	野	間	勇	(193)
化骨性筋炎ノ1例	鬼	川	誠	(193)
遺傳性失調症ノ1異型	山	本	四 明 勇	(194)
轉移性化膿性骨膜炎	今	井	次 雄	(196)
化膿性乳房炎ヨリ敗血症ヘ	今	井	次 雄	(197)
前額竇遺殘死腔ノ處置ニ就テ	野	村	一 郎	(198)
追加	淺	井	東 一	(198)
多發性肝臓膿瘍ノ1治驗例	房	岡	隆 三	(199)
膿胸ノ1治驗例	稻	本	晃	(200)
47歳ノ職人ニ發現シタ肺炎双球菌性腹膜炎	長	岡	浩	(201)
慢性蟲様突起重積症ノ1例	福	地	善 雄	(202)
坐骨結核ノ1例	野	間	勇	(544)
右下腿ニ於ケル進行性皮膚壞疽ノ1治驗例	大	谷	誠 二	(544)
胸壁ノ異常ナル蜂窩織炎	曾	我	頼 幸	(545)
假性横隔膜「ヘルニヤ」ノ手術治驗例	横	山	正 夫	(546)

Arthrogryposis multiplex congenita	横 山 哲 雄	(547)
「イレウス」術後兩側下肢＝現ハレタル中樞性疼痛例	川 上 儀 三 郎	(548)
辜丸ノ「上皮テ」性腫瘍	木 村 忠 司	(549)
新創面ノ自家性無菌性纖維素性被覆 (autochthone aseptische Fibrindeckung der Wundflächen) 療法＝就テ	森 欣 一	(550)
Tic rotatoire	辻 嘉 門	(551)
小囊瘻治療＝對スル 1 ツノ試ミ	桑 原 昌	(552)
脊椎砂時計腫ノ 1 例	上 月 貞 藏	(553)
脳外傷 5 例	長 岡 浩	(554)
結腸癌カ膀胱癌カ	木 村 忠 司	(789)
先天性盲腸高位症ヲ合併セル稀有ナル空腸々間膜附着部憩室 症ノ 1 例	長 岡 善 浩 雄	(790)
Raynaud 氏病	森 欣 一	(791)
側迷入甲狀腺腫ノ 1 例	井 上 諒	(792)
脳腫瘍ノ 1 例	山 本 四 明 男	(901)
「ラクリモール」ノ局所性持續麻痺ヲ應用シテ治癒セル痙攣性 斜頸ノ患者供覽	山 本 四 明 男	(902)
食道「線」キモグラフィ「」	村 上 治 朗	(986)
肝臓膿瘍	桑 原 昌	(987)
腎臓膿腫ノ 1 例	奥 村 秀 一	(988)
生後 4 ケ月ノ乳兒＝生ジタル腎臓膿瘍ノ 1 例	井 上 諒	(990)
出血＝依ル急性胃擴張並ビ＝總腸間膜症	生 越 十 三	(991)
多發性肝臓膿瘍ノ 1 例	岡 田 俊 雄	(1248)
極小胃癌摘出後ノ再發例	朝 倉 進	(1249)
盲腸軸捻轉症ノ 1 例	朝 倉 進	(1250)
腰椎骨折ノ Böhler 氏法＝ヨル 1 治驗例	吉 田 正 久	(1251)
巨大ナル後腹膜腫瘍ノ 1 例	上 原 孫 作	(1252)

臨床診斷ト手術所見

脊髓中心水腫ノ 1 手術例	鬼 川 誠	(203)
化膿性骨膜炎ト診斷サレタル前額竇蓄膿症ノ 1 例	野 村 一 郎	(204)
慢性廻盲部腸重積症カ廻盲部腫瘍カ	横 山 正 夫	(205)

急性幽門狹窄症ヲ呈シタル1種ノ胃腫瘍	山	田	弘	(206)
2個ノ孤立性胃癌	吉	田	久士	(207)
グラム陽性双球菌ニ依ル進行性淋巴肉芽腫ノ1例	上	月	貞藏	(555)
膽囊腫瘍ト誤ラレタル弧在性寒性膿瘍	曾	我	賴幸	(557)
臍ニ生ジタル副脾臓	副	島	謙	(558)
游走腎ヲ思ハシメタル後腹膜腫瘍	德	岡	俊次	(903)
腹膜結核ト腹膜癌腫	野	間	勇	(904)
蟲様突起基底部硬性纖維腫ノ管腔閉塞ニヨル蟲様突起 Retentio	長	岡	浩雄	(993)
尿中出現ノ大腸菌ニ依リ手術適應ヲ定メ得タル假面性蟲様垂				
炎ノ1例	金	澤	紀四五郎	(1253)
子宮筋腫ト誤マラレタル化膿性喇叭管炎ノ1例	小	田	切治正	(1254)

手術方法ノ研究

蟲様突起切除ニ關スル1ツノ注意事項	松	木	軍太	(905)
-------------------------	---	---	----	-------

學 會

第43回近畿外科學會 上皮植皮術ニ對スル藥液使用ノ效果, 特ニ「アセチールヒヨリン」 (ロッシュ)ノ應用(其ノ他64編)	(560)
第4回滿洲外科集談會 顔面脾脫疽ノ1治驗例(其ノ他15編)	(794)
第44回近畿外科學會 輸血用血液ノ保存法ニ就テ(其ノ他54編)	(996)

講 演

運動神經終末ニ於ケル刺激傳達機轉ニ就テ	木	村	潔	(994)
---------------------------	---	---	---	-------

雜 纂

第60回獨乙外科學會演說要旨	青	柳	安誠	(221)
Dandy 腦外科ノ全貌	荒	木	千里	(241)
猪子先生喜壽祝賀會記事	吉	田	久治士朗	(273)
荒木講師通信	村	上		(287)

獨和會話	鳥 湯 隆 三	(290)
Philadelphia 及ビ New Haven = 於ケル腦外科見學報告	荒 木 千 里	(590)
獨和會話	鳥 湯 隆 三	(617)
荒木講師通信		(634)
腦外科研究 (Boston 報告)	荒 木 千 里	(800)
獨和會話	鳥 湯 隆 三	(826)
獨和會話	鳥 湯 隆 三	(917)
獨和會話	鳥 湯 隆 三	(1021)

外 國 文 獻

一 般

人類ノ癌腫ト其ノ遺傳ニ就テ	H. R. Schinz	(209)
被手術者ノ前處置	W. Röpke	(209)
溶血性「ショック」ニ就テ	G. Woytck	(209)
Hesse-Filatov ノ方法ニヨル溶血性「ショック」ノ療法ニ就テ	L. Eljasevic	(210)
妊娠ト手術の侵襲(中部ライン地方外科學會記事)		(210)
食餌及ビ胃底部切除術ニヨル術後空腸潰瘍ノ防止ニ就テ	G. B. Fauley, A. C. Ivy	(579)
潰瘍起因病理ノ知見ニ就テ	K. Makishima	(579)
Vinethen 麻醉ニ就テ	W. Baetzner	(579)
手術「ショック」並ニ手術障得ニ就テ	J. Dapp, Tepperberg	(580)
結核竈ニ對スル「トロトラス」沈着	M. K. Daul u. W. J. Fridkin	(580)
「ワゼリン」注入及ビ「ギブス」繃帶封緘ニ依ル外科的 結核症處置外科刀ニヨル腫瘍細胞ノ轉移	O. Saphir	(581)
Ernst v. Bergmann 誕生百年記念會		(907)
局所及ビ腰椎麻醉下ニ行ハレタ手術後ノ血液凝固狀態	H. Geissendörfer	(907)
自家組織ヲ以テノ止血法	Heilingbruner u. Schörcher	(907)
廣範圍ノ脂肪壞死ニ對スル「ビタミン」A療法	L. Székely	(907)
脂損傷ノ肝油「ギブス」療法ニ就テ	K. E. Herlyn	(908)
心臟病及ビ血管病ニ於ケル甲狀腺全別出術ノ適應ト術式ニ就テ	F. Mandl	(908)
靜脈注射麻醉劑「ペントサル・ソヂウム」ニ就テ	J. H. Hutton u. R. M. Tovell	(1009)
術後循環障害ノ「ヒスタミン」豫防法ニ就テ	St. Rusznyák, St. Karady u. D. Szabö	(009)
手術前ノ働力検査ニ依ル危險率測定ニ就テ	H. Kümell Szabo	(1010)

- 術後皮膚温度ノ變動ニ就テ……………E. Michalowki (1010)
- 交感神経節切除ニ對スル症例撰擇ノ際ニ於ケル
末梢動脈攣縮性トノ區別……………S. Perlow (1010)
- 骨折治癒ニ對スル神経刺激ノ影響……………W. Okonewsky (1010)
- 四肢血管ノ疾患ニ於ケル組織ノ吸收能力ノ意義ニ就テJ. Knoblock u. B. Knoblock (1011)
- 創傷ニ於ケル肝油綱帶ノ作用機轉ニ就テ……………H. Kümmell u. W. Jensen (1011)

頭 部

- 顎間骨突出ヲ伴ヘル口唇上顎口蓋破裂ノ治療ニ就テ……………W. Tomoff (909)
- 腦腫瘍手術ノ操作ニ就テ……………D. Kulenkampff (1013)

頸 部

- 術後重篤ナル腦障礙ノ迅速ナル消退ヲ見タル、左總頸動脈ノ
鷲卵大眞性特發性動脈瘤ノ全剔出例……………E. Glass (1013)
- 轉移性甲狀腺腫ニ就テ……………Reinecke (1014)

胸 部

- 氣管及ビ氣管枝ノ原發性惡性疾患……………P. P. Vinson (212)
- 食道癌ノ處置……………C. Eggers (581)
- 乳房腫瘍ノ術前透視……………Hicken u. Harris (910)
- 膿瘍化セル肺癌ノ組織學的診斷……………I. Zadek (910)
- 食道成形術及ビレ線像ニ於ケル胸廓前食道… Haberland, H. F. O. Teschendorf (910)

腹 部

- 腹腔外科ニ於ケル過度換氣法ニ就テ……………T. J. Ryan (213)
- 穿孔シタル胃及ビ十二指腸潰瘍ノ治療ニ就テ……………R. Finaly (213)
- 蟲様突起ノ動脈炎ノ1例……………R. Scholl (214)
- 蟲様突起性胃症ニ對スル臨牀的、實驗的検査ニ就テ……………M. Maschiko (214)
- 術後ノ完全膽汁瘻並ニ肝臓外膽道完全荒蕪ノ成因及ビソノ療法……………H. Fridrick (214)
- 血栓性靜脈炎性脾臟腫瘤ノ臨牀及ビ病理ニ就テ……………F. Bordasch (215)
- 急性副腎機能不全ノ臨牀的意義、
ソノ病原、診斷及ビ治療ニ就テ……………M. Breitfellner u. R. Herbst (215)
- ヘルニア¹治療トシテ用ヒラレタル
注射方法ノ無効ナル場合ニ就テ……………G. Goldon u. E. Goldon (215)
- 贓置の胃切除術々式……………A. Plenk (581)
- 廣汎ナル小腸切除ト其ノ豫後……………W. Noetzel (582)
- 蟲様垂破裂ノ處置ニ就テ……………L. Joseph (582)
- 腸ノ血管腫……………H. Hanke (583)
- 開腹手術創化膿ノ頻度ト原因ニ就テ……………E. Seifert (911)
- 先天性肥大型幽門狹窄症ノ觀血の療法ニ就テ……………O. Raisch (911)

- 胃潰瘍ノ癌腫性變性ニ就テ..... J. W. Hinton u. M. Trubek (911)
- 潰瘍穿孔ノ診療ニ關スル 2, 3 ノ注意..... Stocker (911)
- 消化性空腸潰瘍根治手術後ノ稀ナル合併症(空腸ノWringverschluss) H. Finsterer (912)
- 糖尿病性昏睡ト脂肪肝ヲ伴ヘル急性脾臓炎..... F. Root (912)
- 小兒鼠蹊ヘルニア根治手術ノ持續的結果ニ就テ..... G. Lüth (913)
- 鼠蹊部淋巴肉芽腫ニ於ケル皮膚潰瘍ニ就テ..... Max. S. Wien u. M. O. Perlstein (913)
- 腹壁化膿ノ問題ニ就テ..... V. Schmieden (1014)
- 食道裂口ヘルニアニ就テ..... F. Oehlecker (1015)
- 網膜癒着ニ於ケル淋巴管ニ就テ..... P. H. Simer u. R. L. Webb (1015)
- ラムステツト氏幽門筋切開術ノ1變法..... H. Wamsteker (1015)
- ヒスチデン療法ハ胃潰瘍患者ノ潰瘍穿孔ヲ防ギウルヤ..... C. Flechtenmacher (1016)
- 脾液ノ膽道内ヘノ侵入意義..... T. Popper (1016)
- 脾液ノ膽道内ヘノ侵入意義..... C. Ritter (1017)
- 末端廻腸炎..... C. Knapper (1017)
- 憩室症並ニチフスノ場合ニ於ケル人爲的直腸穿孔..... A. Fehr (1017)
- 肛 門**
- 肛門閉鎖機能恢復ニ對スル成形操作..... S. Rosenak (216)
- 泌尿生殖器系**
- 泌尿器學ニ於ケル喰菌現象..... B. Frisch (216)
- 皮下腎臓損傷及ビソノ結果ニ就テ..... E. Dozsa (216)
- 青年及ビ小兒期ニ於ケル攝護腺癌ノ發生ニ就テ..... F. Spath (217)
- 腹部腫瘤ニ際シテ靜脈注射腎盂
レ線寫眞像ニ現ハレタル泌尿器系統ノ病的變化ニ就テ..... W. Gülland (583)
- 腎臓結核ノ自然治癒ノ可能性ニ就テ..... H. Wildbolz (583)
- 腎臓結核術後ノ瘻形成防止ニ就テ..... H. Weber (584)
- 膀胱憩室ニ就テ..... A. Babics (584)
- 尿道内攝護腺切除術ノ不成果ニ就テ..... E. Karrs (584)
- 泌尿器レ線寫眞像ノ價值批評及ビ腎機能検査法
トシテ排泄的腎盂造影法ノ價值ニ就テ..... K. Werwath (914)
- 腎臓及ビ輸尿管機能ニ對スル藥物ノ影響..... R. Paschkis u. T. Canigiani (914)
- 並ニ其ノレ線像ニ據ル示現
- 腎臓ノ莢膜剝離術及ビ神經切除術..... M. Schneider u. E. Wildbolz (915)
- ガ腎臓内血液灌流ニ及ボス影響
- 尿路レ線撮影方法ノ診斷的利用限界ニ就テ..... Werwath (1018)
- 腎臓固定術ニ就テ..... P. Graf (1018)
- 小兒ニ於ケル腎臓結核ニ就テ..... Klasson (1018)

- 所謂無菌性腎臟性膿尿…………… F. Schaffhauser (1019)
 脊椎骨折後ニ出現セル兩側性浸出性腎臟結石ノ1例…………… F. Klages (1019)
 輸尿管結石ノ保存的療法ニ就テ…………… J. Rivoir (1019)
 腎臟癰ヲ手術セル患者ノ運命…………… L. Hencz (1020)

四 肢

- 神經腫性象皮病ニ關スル考察…………… W. Brunner (217)
 末梢動脈閉塞症ノ療法…………… W. S. Collens u. N. D. Wilensky (585)
 軀幹性腱周圍炎…………… N. J. Howard (916)

骨

- 骨再生ニ對スル甲状腺ノ影響ニ就テノ實驗的研究…………… H. Hanke (217)
 外傷性骨端剝離ノ治癒ニ及ボス内分泌障礙ノ意義ニ就テ…………… M. Ernst (218)
 異物(針金, 絹糸, 腸線)使用ニ依ル假骨形成ニ對スル實驗的批判…………… K. G. Kaelsch (218)
 非癒合性骨折ノ原因的要素ニ對スル考察…………… H. Turner (219)
 急性橫行骨萎縮…………… G. Stern (219)
 Orr 及ビ Löhr 氏法ニ依ル慢性骨髓炎ノ治療ニ就テ…………… Dengler (219)
 骨囊腫ノ外科的治癒ニ就テ…………… T. v. Matolcsy (219)
 甲状腺ノ作用ト骨折治癒…………… H. Eitel u. Lexer. (585)
 慢性關節炎ノ關節内肝油注射療法…………… F. Andernach u. W. Löhr (585)
 習慣性肩胛關節脫臼ノ手術的療法…………… H. Matti (586)
 橈骨小頭ノ脫臼骨折ノ療法ニ就テ…………… E. Mackuth (586)
 股關節ノ變化並ニ炎症性疾患及ビ病理學的見地ニ立脚セル手術的療法…………… R. Heep (586)
 大腿骨頸中央部骨折ノ釘串法後假關節及ビ其他ノ失敗發生原因…………… F. Felsenreich (587)
 稀有ナル足部脫臼ノ一知見…………… G. Röttger (587)
 局所性纖維性骨炎治癒ニ於ケル骨碎片使用ニ就テ…………… E. Freund (915)

腦脊髓

- 脊髓腫瘍ト外科…………… Craig (220)
 同一脊椎ノ關節突起間部及ビ棘狀突起…………… H. Junghaus (588)
 ニ認メラレタル先天性裂形成ニ就テ……………
 手術室ニテ開放創ヨリ直接照射ニヨリテ行フ腦脊髓腫瘍ノレ線治療 C.A. Elsberg (588)
 腰椎部髓核ヘルニア…………… E. Busch u. E. Christensen (588)
 脊髓終線ヨリ發生セル腦室上皮細胞腫…………… O. Foerster u. O. Gagel (586)
 被包性腦膿瘍ノ處置…………… E. A. Kahn (909)

日 本 外 科 寶 函

第 14 卷 第 1 號

猪子名譽教授喜壽祝賀記念號



楊子之



楊子山

＝ 内 容 目 次 ＝

〔 原 著 〕

普通淋菌_Lワクチン¹が含有シタル免疫阻止物質ノ立證

第1報 淋菌_Lワクチン¹ヲ以テスル動物體內喰菌作用

_Lイムペデン¹現象..... 中 川 觀..... (1)

第2報 生抗原煮沸時間ト抗原能働カトノ關係..... (12)

第3報 _Lアルチゴン¹ヲ以テスル海猿流血中喰菌作用_Lイムペデン¹現象..... (20)

第4報 北研製淋菌感作_Lワクチン¹ヲ以テスル喰菌作用_Lイムペデン¹現象..... (29)

第5報 北研製淋菌感作_Lワクチン¹含菌體ヲ以テセル催喰菌作用_Lイムペデン¹現象... (37)

第6報 北研製淋菌感作_Lワクチン¹生・煮兩抗原ガ抗大腸菌特殊凝集素血中產生＝
及ボス影響..... (46)

結核菌各種成劑ニ於ケル_Lイムペデン¹ノ研究

第8報 フランクフルト・アム・マイン獨逸國立實驗治療研究所製無蛋白_Lツベル
クリン¹ノ催喰菌作用_Lイムペデン¹現象..... 辰 井 正 平..... (61)

第9報 フランクフルト・アム・マイン獨逸國立實驗治療研究所製無蛋白_Lツベル
クリン¹ノ含有スル_Lイムペデン¹ノ完全破却＝必要ナル煮沸時間＝就テ..... (68)

第10報 フランクフルト・アム・マイン獨逸國立實驗治療研究所製無蛋白_Lツベル
クリン¹ノ含有スル_Lイムペデン¹＝依ル抗大腸菌凝集素產生阻止現象..... (77)

第11報 フランクフルト・アム・マイン獨逸國立實驗治療研究所製無蛋白_Lツベル
クリン¹ノ含有スル_Lイムペデン¹＝依ル馬血清特殊沈澱素產生阻止現象..... (92)

創傷治癒＝及ボス副腎機能ノ影響＝就テ..... 濱 谷 軍 治..... (101)

_Lミエローム¹ノ_Lイムペデン¹現象

第1報 _Lイムペデン¹ノ立證 附：發生原因＝關スル一考察..... 大 隈 義 朗..... (171)

〔 臨 床 〕

總頸動脈結紮症例..... 都 谷 枝 萬 次 郎
磯 邊 昌 治..... (179)

〔 臨 床 講 義 〕

_Lヘルニア¹性陰嚢水腫並ニ波多腰_Lヘルニア¹根治手術 Hydrocele hernialis sowie die
radikale Operation schräger Leistenbrüche nach Hatakoshi..... 島 湯 隆 三..... (185)

〔臨 床 瑣 談〕

化膿性炎症ノ症狀ヲ呈セル乳兒非化膿性多發性關節炎.....	野間 勇.	化
骨性筋炎ノ1例.....	鬼川 誠.	遺傳性失調症ノ1異型.....
明男.	轉移性化膿性骨膜炎.....	今井次雄.
血症へ.....	今井次雄.	前額竇遺殘死腔ノ處置ニ就テ.....
追加.....	淺井東一.	多發性肝臟膿瘍ノ1治驗例.....
膿胸ノ1治驗例.....	稻本 晃.	47歳ノ職人ニ發現シタ肺炎双球菌性腹膜炎.....
炎.....	長岡 浩.	慢性蟲樣突起重積症ノ1例.....
		福知善雄..... (193)

〔臨床診斷ト手術所見〕

脊髓中心水腫ノ1手術例.....	鬼川 誠.	化膿性骨膜炎ト診斷サレタル前
額竇蓄膿症ノ1例.....	野村一郎.	慢性廻盲部腸重積症カ廻盲部腫瘍カ...
.....	横山正夫.	急性幽門狹窄症ヲ呈シタル一種ノ胃腫瘍.....
2個ノ孤立性胃癌.....	吉田久士. (203)

〔外 國 文 獻〕

人類ノ癌腫ト其ノ遺傳ニ就テ(其他26編).....	(209)
---------------------------	-------

〔雜 纂〕

第60回獨逸外科學會演說要旨.....	青 柳 安 誠..... (221)
Dandy 腦外科ノ全貌.....	荒 木 千 里..... (241)
猪子先生喜壽祝賀會記事.....	吉 田 久 士..... (273)
荒木講師通信.....	村 上 治 朗..... (287)
獨和會話 Deutschsprechen der Japaner (承前).....	鳥 潟 隆 三..... (290)

〔會 員 動 靜〕

月刊『實驗消化器病學』

定價

一年十二部 金六圓（郵稅共）
歐文號 一年 四回 金拾圓

顧れば本會「實驗を主として臨牀に立脚し諸分科を照合して消化器病、新陳代謝病、營養學の完璧を期せん」ことを綱領として我が學界に立ち、月刊「實驗消化器病學」を發刊してより茲に十一年、幸ひに同學の士の御賛同により豫想外の盛大を致し、又歐文號を發刊し本誌並に本邦消化器病學界の現狀を廣く海外に宣明し本邦學界のため聊か寄與する所がありました。本會は此機に於て更に廣く同志を好學の士に求め御鞭撻によつて一層斯學の隆運を期せんとするものであります。冀くは斯界のため此際特に御入會御叱正あらむことを。

京都帝國大學醫學部

松尾内科教室内

消化器病研究會

振替大阪六六三八二番



京都帝國大學醫學部皮膚科教室內
皮膚科紀要編輯部編纂並刊行

皮膚科圖說

(皮膚病 黴毒 泌尿器病)

三大特色

- ◆ 圖譜ヲ本位トスル皮膚科泌尿器科雜誌トシテ世界的ニ知ラレ毎號獨逸皮膚科泌尿器科中央雜誌ニ紹介セラル
- ◆ 斯學領域ニ關スル重要症例ハ悉ク網羅セルヲ以テ連續購讀ニヨツテ容易ニ皮膚科全般ニ亘ル最新智識ニ通ズルヲ得
- ◆ 一般臨床醫家諸賢ニ斯學ノ智見ヲ普及スルコトヲ念願トシ特ニ犧牲的廉價ヲ以テ頒ツ

☒ 一ケ年四回(三月 六月 九月 十二月)發行 購讀料 一ケ年金參圓
 ☒ 原色版二乃至三葉 コロタイプ四葉 解説十二頁 高級印刷紙 表紙鳥ノ子和紙
 ☒ 購讀御希望ノ方ハ住所氏名御明記ノ上 發行所宛テ申込マレタシ

發行所

京都帝國大學
皮膚科教室內

皮膚科紀要編輯部

振替 内 阪 六 五 四 八 〇 番

主要取次書肆

南江堂書店

丸善株式會社

人 名 索 引

原著ハ太字 臨床ハ斜字 學會ハ普通 雜()

A

阿 部 四 郎 566, 569
青 柳 安 誠 (221)
荒 木 千 里 241, (590) (800) 1181, 193
荒 木 松 實 (Araki, M.) 1059, 1063, 1067
1073, 1076, 1079, 1083
荒 木 省 吾 (Araki, S.) 839, 947, 1045
淺 井 東 一 198
朝 倉 進 1249, 1250

B

美 馬 陽 571, 1003
坊 岡 富 士 夫 565

D

段 塚 尙 1001
土 居 文右衛門 998

E

遠 藤 堅 太 郎 998
江 崎 勇 567, 997
江 藤 良 三 566

F

藤 浪 修 一 503, 331, 756, 1207
藤 田 一 雄 574, 1004
藤 田 小 五 郎 563, 567, 996, 998, 100
富 士 原 清 雄 566, 571, 576
福 田 浩 藏 562, 996
福 田 正 男 563, 566
福 知 善 雄 202, 790, 993, 1007
房 岡 隆 三 199

H

濱 光 治 562, 565
濱 田 光 志 563
濱 谷 軍 治 (Hamatani, G.) 101, 476, 663, 689
原 守 藏 569
橋 本 長 利 569
橋 瓜 三 郎 796
波 多 腰 正 雄 571
林 勝 長 571
平 林 馨 563

平 澤 好 昭 572
堀 口 泰 雄 1002
堀 尾 幸 也 562

I

伊 庭 喬 樹 566
井 福 早 苗 577
稻 本 晃 200
今 井 次 雄 196, 197
今 西 三 郎 1001
今 津 九右衛門 562, 574, 1006
井 上 諒 792, 990
石 野 琢 二 郎 999
石 谷 九右衛門 (Ishitani, K.) 695, 705, 716, 729
石 山 福 二 郎 567
磯 部 喜右衛門 789
磯 邊 昌 治 179
板 垣 忠 次 郎 1005
伊 藤 晃 796
伊 藤 榮 一 1008
岩 城 達 (Iwaki S.) 1087, 1102, 1113, 1123
1133, 1147, 1154, 1167, 1171
岩 本 賢 次 563

K

上 山 堯 之 576
金 澤 紀 四 五 郎 1253
笠 原 親 之 助 798
鴨 田 正 治 796, 797
片 島 實 997
加 藤 亮 之 輔 567
勝 井 富 三 郎 576
川 口 吉 榮 562
川 上 儀 三 郎 548, 568, 1001
河 村 謙 二 1008
萱 田 靜 海 568
神 田 光 治 郎 998
木 田 義 雄 998
鬼 川 誠 193, 203, 576
木 村 忠 司 549, 789

木村潔	(994)
木村隆	795
喜多猛	562
北山三郎	563
小林義郎	566
小山潔	562, 1002
小山英次	563, 998

M

増戸武夫	568
松木軍太	905
松本元勝	1007
松尾信吉	1004, 1006
松岡繁勝	568
峰	569, 573
三羽兼義	571, 1005
三井善二	576
宮司克己 (Miyaji, K.)	340, 347, 352, 360, 367, 384, 417
森健一	795, 799
森欣一	550, 791
盛彌壽雄	575
村上治朗	(273), 571, 985

N

長岡浩	201, 554, 790, 993, 1008
中井慎一	796
中島俊郎	797, 798
中川觀 (Nakagawa, K.)	1, 12, 20, 29, 37, 46
中村福一郎	1003
中村一郎	563
中村敬一	997
中西杲	1001
中山清一	563, 566
弓場正義	798
西浦一彦	562
野間勇	197, 544, 566, 904
野間安則	576, 577
野村一郎	198, 204

O

小田切治正	1254
都谷枝萬次郎	197
萩野金八	568
生越十三	991
扇谷市太郎	569

大原重之	997
大隈義郎 (Ohkuma, Y)	171, 575
大野良藏	1004
大澤達	569, 1006
大谷誠二	544
大内正太郎	798
岡田俊雄	1248
奥村秀一	988
折居圭三	794
長田博之	1007
小澤凱夫	1003

S

齊藤弘	572
佐海藤太郎	564
清英太	569
瀬尾貫二	564
芝茂	1007
曾我頼幸	545, 557, 1008
副島謙	558, 1008
末廣茂逸	1005
菅居正素	576
杉岡善一	577, 1001, 1003
澄川龍祐	795, 798

T

立井宗光	571
武田義章	567, 998
武田博	1001
竹岡友文	996
武内清	562, 563, 998
竹内信一	566
谷恒雄	563, 577
辰井正平 (Tatui, S)	61, 68, 77, 92
鄭準謨 (Chunmo- Chung)	879, 955, 1031
徳岡俊次	903
富永昌	562, 566
富永宜暢	562, 1001
友野慶尙	1001, 1007
鳥潟隆三	100, 185, 526, 778, 889, 895, 980
豊田貞藏	553, 555, 965, 1002
土田實昭	564
辻嘉門	551
角田英	999

U

植 木 龜 三
上 原 孫 作
上 村 一 夫
上 村 良 一
油 石 正 德

W

和 田 節 雄
渡 邊 壽 之 助
渡 邊 恒 彦

Y

山 田 弘

山 田 評 吉
569 山 本 四 明 男
1252 矢 野 四 郎
100 矢 田 貝 薰
57³ 横 田 浩 吉
566 横 山 正 夫
996 横 山 光 夫
1006 横 山 哲 雄
797 吉 田 久 士
吉 田 正 久
吉 益 爲 則
206, 884 吉 利 猛 二

573, 1004
194, 901, 902, 1002
794, 795
1008
1004
205, 546, 744, 1003
567
547
207, (273)
1251
565
796, 797

事物索引

原著ハ太字，臨床ハ斜字，學會，抄録，雜ハ普通

A

亞鉛

- 悪性腫瘍ニ於ケル—— 576
 Lアクリヂン¹注射ニ依ル急性靜脈炎 562
 荒木講師ヨリノ通信 287, 617
 Arthrogryposis multiplex congenita 547
 Lアルチゴン¹喰菌作用Lイムベゲン¹現象 20

B

- 馬鼻疽 795
 馬血清——特殊沈澱素產生阻止現象 92
 Lヴィタミン¹——A療法 907
 膀胱憩室 584
 Böhler 氏法
 腰椎骨折ノ—— 1251
 汎發性化膿性腹膜炎
 妊娠後期ニ於ケル—— 571
 プリント氏病 566

C

- 陳舊性肋椎關節脱臼 565
 癰 治療 566
 腸
 ——骨窩異物 798
 ——運動 1004
 ——血管腫 583
 腸管膜
 ——囊腫 573
 ——様包裹症 573
 腸管囊腫 1007
 ——様氣腫 572
 直腸
 ——癌 577
 人爲的——穿孔 1017
 中樞性疼痛例 548
 術後ニ現ハレタ—— 1001
 蟲様垂
 ——破裂 582
 假面性——炎 1253

- ノ動脈炎 214
 ——重積症 1008
 慢性——重積症 202
 ——基底部硬性纖維腫 993
 ——Lミキソグロブローゼ¹ 1007
 ——Retentio 993
 ——類癌腫 571
 ——性胃症 214
 ——切除ニ關スル注意事項 905
 ——炎手術名稱整理統一問題 569

D

- 大腸菌 1253
 大腿
 ——骨頭中央部骨折 587
 ——肉腫 798
 Dandy 腦外科 241
 彈撥膝異型 1001
 脱臼
 陳舊性肋椎關節—— 565
 肩峰鎖骨關節—— 564
 股關節—— 564
 傳導麻醉——筋Lクロナキシ¹ 998
 獨和會話 290, 617, 826, 917, 1021
 獨逸外科學會 第60回—— 221
 動脈炎
 蟲様突起—— 214
 動脈血栓疏通術 1006
 働力検査
 手術前ノ—— 1010

E

- El-Tor 菌
 ——Lアナワクチン¹ 716
 ——免疫元ノ比較 729
 Lエピテル¹性腫瘍
 皋丸ノ—— 549
 Ernst, Bergmann 誕生百年記念會 907

F

腹部

原發性——大動脈血栓……………566

——腫瘤……………583

複合肺炎萎縮術……………567

副腎

——惡性髓質腫瘤……………577

副腎機能

急性——不全……………215

——ノ消長……………663

創傷治癒ニ及ボス——……………476, 663

腹腔 外科過度換氣法……………213

腹壁

——化膿……………1014

——弧在膿瘍……………566

副睪丸 淋巴管腫……………1008

腹膜

——癌腫……………904

——結核……………904

副脾臓

臍ニ生ジタ——……………558, 1008

G

顎間骨突出……………909

外傷性骨端剝離……………218

顔面脾脱疽……………794

外科的結核

「ワゼリン」注入ニヨル——……………581

原發性

氣管ノ——惡性疾患……………212

氣管枝ノ——惡性疾患……………212

——肉腫……………744

——舌膿瘍……………566

「ギブス」

——綑帶封緘……………581

肝油——療法……………908

グラム陽性雙球菌……………555

H

肺

——中ニ産生セラレタル……………307, 317, 328

——脾脱疽……………567

——摘出症例……………1003

肺炎 雙球菌性腹膜炎……………201

肺癌

——組織學的診斷……………910

——肺葉切除術……………567

肺壞疽……………796

敗血症……………197

反覆穿孔療法……………563

破傷風……………572

波多腰「ヘルニア」根治手術……………185

「ヘルニア」

——治療……………215

——性陰囊水腫……………185

皮膚

術後——溫度……………1010

——疾患ノ化學療法……………998

進行性——壞疽……………544

淋巴肉芽腫ニ於ケル——潰瘍……………913

被包性腦膿瘍……………909

泌尿器

——學ニ於ケル喰菌現象……………216

——「線寫眞像」……………914

被手術者ノ前處置……………209

「ヒスチザン」療法……………1016

Hesse-Filatov法ニヨル溶血性「シヨツク」治療……………210

「ヒタミン」

家兎ニ於ケル——抵抗……………997

——呼吸困難……………997

——豫防法……………1010

「ヒタミナーゼ」

腸閉塞症ニ於ケル——ノ消長……………569

——各種金屬ノ影響……………1001

——臨床的應用……………1001

脾臓 腫瘤……………215

蜂窩織炎……………1249

廻腸——……………799

胸壁ノ——……………544

「ホルモン」

生體內ニ於ケル——破壞……………997

瘰癧……………980

I

胃

——切除術々式……………581

穿孔シタ——ノ治療……………213

——運動……………569

- 腸ノレ線検査..... 503, 531, 756
- 遺傳 性失調症..... 194
- 胃癌
- 孤立性——..... 207
- 摘出後ノ再發..... 1249
- 胃潰瘍——ノ癌腫性變性..... 911
- 胃腫瘍..... 206
- 急性炎衝性——..... 884
- 「イムベデン」
- 「エーテル」——破却..... 1154
- 破却..... 695, 705
- 家鶏粘液肉腫ハ——ヲ含有スルヤ..... 1087
- 好適煮沸時間..... 347, 352
- 結核菌——研究..... 61
- 家鶏筋肉ハ——ヲ含有スルヤ..... 1102
- 家兎辜丸ハ——ヲ含有スルヤ..... 1113
- 「ミエローム」ノ——現象..... 171
- 「ツベルクリン」ノ——完全破却..... 68
- 陰囊水腫
- 「ヘルニア」性——..... 185
- 猪子先生喜壽祝賀會記事..... 273
- J**
- 自家性無菌性纖維素性被覆..... 550
- 腎臓
- 皮下——損傷..... 216
- 固定術..... 1018
- 神經切除術..... 915
- 藥物ノ影響..... 914
- 癰..... 1020
- 腎臓結核
- 術後ノ瘻形成防止..... 584
- ノ自然治癒..... 583
- 小兒ニ於ケル——..... 1018
- 腎臓結石
- 兩側性, 浸出性——..... 1019
- 腎臓性膿尿
- 無菌性——..... 1019
- 腎臓腫瘍..... 988
- 生後4ヶ月ノ乳兒——..... 990
- 上膊骨々折..... 795
- 靜脈
- 注射麻醉劑..... 1009
- 注射腎盂レ線寫眞像..... 583
- 麻醉, 腦壓ニ及ボス研究..... 562
- 瘤 ノモレシイ氏手術..... 798
- 十二指腸 憩室..... 1004
- 十二指腸潰瘍
- 穿孔シタ——ノ治療..... 213
- 穿孔..... 1004
- 人類 ノ癌腫トソノ遺傳..... 209
- 痔瘻..... 895
- K**
- 廻腸 末端ノ原發性肉腫..... 744
- 蛔蟲
- ニヨル癭變性「イレウス」..... 568
- 膽道内生體——迷入..... 1006
- 開腹 手術創化膿ノ頻度, 原因..... 911
- 廻盲部腫瘍..... 205
- 家鶏粘液肉腫
- ノ毒力..... 1123
- 水浸出液ヨリ「エーテル」中ヘ..... 1163
- 「イムベデン」現象..... 1087
- 「イムベデン」ノ完全破却..... 1133
- 「イムベデン」ノ蛋白體側..... 1147
- 浸出液ノ..... 1171
- 化骨不全症..... 965
- 假骨形成
- 異物使用ニ依ル——..... 218
- 化骨性筋炎..... 193
- 化膿性
- 炎症..... 193
- 乳房炎..... 197
- 非——多發性關節炎..... 193
- 潰瘍
- 起因病理ノ知見..... 579
- ノ診療..... 911
- 寒性膿瘍
- 孤在性——..... 557, 1008
- 肝油 繃帶ノ作用..... 1013
- 火傷
- 重症——..... 797
- 肝臓
- 破裂..... 796
- 外膽道完全荒蕪..... 214

——癌	1004	巨大ナル	1252
多發性——膿瘍	199	睾丸	
痘瘡性 _L イレウス ¹		——ノ _L エピテル ¹ 性腫瘍	549
蛔蟲ニヨル——	568	——癌腫	576
頸椎 外傷性軟骨腫	577	——腫瘍	576
結腸癌	785	抗原能動	
——カ、膀胱癌カ	789	生抗原煮沸時間——トノ關係	12
結核 竈ニ對スル _L トロトラスト ¹ 沈着	580	交感神經	997
結核菌 増容素量	317, 328	——切除	1010
血液 凝固狀態	907	_L コクチゲン ¹ 軟膏貼用	340, 360, 367, 384
血管病		肛門 閉鎖機能恢復	216
——甲状腺全剔出術	908	抗黃色葡萄球菌	340, 347
血管腫		口唇上顎口蓋破裂	909
腸ノ——	583	骨炎	
血栓性靜脈炎性脾臓腫痛	215	局所性、纖維性——	915
血友病 性關節症	563	骨膜炎	
肩峰鎖骨關節脱臼	564	化膿性——	196
肩胛關節脱臼		骨肉腫	526
習慣性——	586	骨囊腫 外科的治療	585
腱周圍炎		骨折 治療ニ對スル神經刺激	1010
軋轢症——	916	骨髓炎	
健常臟器 _L オブソニン ¹ ノ 自然的分佈	1059	Iöhr 氏ニヨル慢性——	219
——表皮	1059	Orr 氏ニヨル慢性——	219
——脾臓	1083	孤在性寒性膿瘍	557
——肝臓	1079	甲状腺	
——筋肉	1073	——全剔出術	908
——睾丸	1076	骨再生ニ對スル——	217
——睾丸ハ _L イムペゲン ¹	1113	——ノ作用、骨折治療	585
畸形		心臟病ニ於ケル——	903
四肢ノ——	796	甲状腺腫	792, 889
_L キモグラフィー ¹		轉移性——	1014
食道レ線——	986	空腸々間膜 附着部憩室炎	790, 1007
筋 _L クロナキシー ¹		空腸潰瘍	
腦脊髄液溫度ト——	562	胃底部切除術ニヨル——防止	579
近畿外科學會		食餌ニヨル術後——防止	579
第43回——	560	消化性——	
第44回——	996	空腸 _L ポリボージス ¹ ニヨル _L イレウス ¹	568
基礎代謝測定法		空氣栓塞	1002
リード氏ニヨル——	998	_L クロナキシー ¹	
高張液注入		知覺——	997
抗大腸菌凝集素產生阻止現象	77	筋——	998
後腹膜腫瘍		胸廓前食道	

淋巴洞	
淋巴線實質内ニ於ケル細胞間腔	935
淋巴管	
哺乳動物ニ於ケル	1031
網膜癒着ニ於ケル	1015
淋巴肉芽腫	
進行性	535
鼠蹊部	913
淋巴腺 細胞間腔	935
連鎖狀球菌	705
レ線	
胃腸ノ	検査 503
レ線照射	
——ニヨル肉腫	797
——時間	695, 705
レロペリン ¹	
——ノ氣管枝ニ對スル	562
——肺血管	562
肋骨 ¹ カリエス ¹ ノ統計的觀察	1002
肋骨肉腫	
廣汎ナル	576
綠膿菌 感染	998

S

生抗原煮沸時間 ト抗原能動力トノ關係	12
赤痢抗體	
局所皮膚ニ於ケル	340, 347, 352, 360, 367, 384
レセクレチン ¹	
——中ノ膀胱分泌作用	562
——膀胱分泌作用物質	562
先天性 盲腸高位症	790
攝護腺癌	
青年期ニ於ケル	217
小年斯ニ於ケル	217
脊椎骨折	1019
脊椎砂時計腫	553, 1002
脊髓中心水腫	203, 575
脊髓炎	
壓迫性	563
脊髓腫瘍	575, 1002
——ト外科	220
痛 ノ治療	566
脂肪壊死 ¹ ノヴィタミン ¹ A療法	907

股關節ノ變性, 炎症性疾患	586
股關節脱臼	
陳舊性外傷性	794
先天性	564
止血法	
自家組織ヲ以テノ	907
子宮筋腫ト誤ラレタ	1254
眞性特發性動脈瘤	1013
心臟病	908
心臟縫合	566
四肢 血管	1011
膝蓋靱帶斷裂	563
鼠蹊 ¹ ヘルニア ¹	
小兒ノ	913
足部, 脱臼	587
總腸間膜症	
出血ニヨル	991
總頸動脈結紮症	179
早期毒	593
總輸膽管囊腫	
特發性	572
創傷	
——ニ於ケル肝油綿帶	1011
——治愈ニ及ボス副腎機能	101, 476, 663
小腸 切除	582
小瘻瘻治療	552
消化性空腸潰瘍	912
松果腺	
——ニ發生セル ¹ メニンデオーム ¹	1181
——腫瘍	1193
食道	
——外科	1006
——狹窄ノ特異性	569
——粘膜皺襞像	1006
——裂口 ¹ ヘルニア ¹	1015
——レ線 ¹ キモグラフィ ¹	986
——癌ノ處置	581
小兒	
——鼠蹊 ¹ ヘルニア ¹	913
——腎臟結核	1018
脾液	
——ノ膽道内ヘノ侵入	1016, 1017

手術

——後疾患	567
—— \angle ショック \angle	580
——障碍	580
臭蟲毒	997
腫瘍細胞	
外科刀ニヨル——	581

T

多發性	
——肝臓膿瘍	199
膽道 内生體蛔蟲迷入	1006
胆汁ノ——内浸入	1016
膽囊腫瘍	
——ト誤ラレタ	557
胆汁瘻	
術後ノ完全——	214
低張液注入	996
轉移性	
——化膿性骨膜炎	196
Tic rotatoire	551
糖尿病	
——性昏睡ヲ伴ヘル急性垂臓炎	912
\angle トロトラスト \angle 沈着	580
\angle ツベルクリン \angle	
無蛋白—— \angle イムペヂン \angle 現象	61
無蛋白—— \angle イムペヂン \angle ノ完全破却	68

U

運動神經ニ於ケル刺戟傳達機轉	994
----------------	-----

V

Vinether 麻醉	579
-------------	-----

W

\angle ワクチン \angle	
——抗大腸菌	46
——喰菌作用 \angle イムペヂン \angle 現象	29
——催喰菌作用 \angle イムペヂン \angle 現象	37
\angle ワゼリン \angle 注入	581

Y

溶血性 \angle ショック \angle	209
腰椎部骨髓核 \angle ヘルニア \angle	588
腰椎骨折ノ Böhler 氏法	1251
輸血	
——用血液保存法	996
癒合性骨折	
非——ノ原因	219
輸尿管	
——閉塞ノ特殊性	574
——ノ一時結紮	1045
——結石	1019
——小腸可移植	1007
——藥物ノ影響	914
残留——疝痛	1001
幽門筋	
ラムステット氏——切開術	1015
幽門狹窄症	
急性——	206, 884
先天性、肥大性——	911
游走腎 ヲ思ハセタ後腹膜腫瘍	903
游走脾	
——摘出例	1004

Z

坐骨結核	544
前額竇	
——蓄膿症	204
——遺殘死腔	198
全身性抵抗力 皮膚トノ關係	999
舌膿瘍	
原發性——	566
象皮病	
神經腫性——	217
増容反應	
肺臓中ニ產生——	307
頭膊筋皮下斷裂	563

Inhaltsverzeichnis

(Ausgegeben 1937)

ORIGINAL

Nakagawa, K., Nachweis des in den gewöhnlichen Gonokokkenvakzinen enthaltenen Impedins.	
I. Mitteilung: Nachweis der antiphagozytären Eigenschaft des Impedins....	1
II. Mitteilung: Feststellung der optimalen Abkochungszeit des nativen Antigens zur völligen Regenerierung seiner Antigenavidität.	12
III. Mitteilung: Prüfung des Arthigons auf das Impedin.	20
IV. Mitteilung: Prüfung der sensibilisierten Gonokokkenvakzine auf das Impedin.	29
V. Mitteilung: Prüfung der in der sensibilisierten Gonokokkenvakzine enthaltenen Gonokokkenleiber auf das Impedin.....	37
VI. Mitteilung: Prüfung der sensibilisierten Gonokokkenvakzine in ihren Komponenten.	46
Tatsui, Sh., Ueber das Impedin in den antigenen Präparaten aus Tuberkelbazillen.	
VIII. Mitteilung: Nachweis des Impedins im eiweissfreien Tuberkulin vom Seruminstitut zu Frankfurt am Main.	61
IX. Mitteilung: Erforschung über die optimale Abkochungszeit des eiweissfreien Tuberkulins für die totale Regenerierung der Antigenavidität.	68
X. Mitteilung: Nachweis des im eiweissfreien Tuberkulin vom Seruminstitut zu Frankfurt a. M. enthaltenen Impedins: u.z. in der Auslösung des Anticoliagglutinins im Blute normaler Kaninchen.	77
XI. Mitteilung: Die Wirkung des im eiweissfreien Tuberkulin enthaltenen Impedins; und zwar bei der immunisatorischen Auslösung des Antipferdeserumpräzipitins im Serum normaler Kaninchen.	92
Hamatani, G., Experimentelle Untersuchungen über den Einfluss der Nebennierenfunktion auf die Wundheilung.	101
Ohkuma, Y., The Impedin-Phenomena on Myeloma.	
I. The Proof of the Existence of Impedin in the Myelomatous Tissue with a side Light on the Pathogenesis of the Tumor.	171
Ogai, S. u. Isobe, M., Ein Fall von Unterbindung der rechtsseitigen Carotis.	179
Fukutomi, H., Erforschung über die in der Lunge erzeugten Antikörper gegen Tuberkelbazillen.	
I. Mitteilung: Nachweis der in der Lung erzeugten Antikörper mittels des Volamination.	307

II. Mitteilung: Vergleich des nativen Antigens aus den Tuberkelbazillen mit dem korrespondierenden Kocktigen in der Auslösung des spezifischen Antikörpers in der Lunge; u.z. bei der einmaligen Einspritzung von je 0,5 ccm.	317
III. Mitteilung: Vergleich des nativen Antigens aus den Tuberkelbazillen mit dem korrespondierenden Kocktigen in der Auslösung des spezifischen Antikörpers in der Lunge; u.z. bei 3 maliger Einspritzung von je 0,5 ccm.	328
Miyaji, K., Erforschung über die Erzeugung der homologen und heterologen Antidysenterieantikörper in und aus der äusseren Haut.	
I. Mitteilung: Die Auslösung des gegen Staphylokokken gerichteten Opsonins im mittels der Dysenteriekocktigensalbe vorbehandelten Hautlokal. ...	340
II. Mitteilung: Feststellung der optimalen Abkochungszeit der Dysenteriebazillenaufschwemmung zur Herstellung des Kocktogens; u.z. in der Erzeugung der grössten opsonischen Wirkung im damit vorbehandelten Hautlokale.	347
III. Mitteilung: Feststellung der optimalen Abkochungszeit der nativen Kulturbouillon von Dysenteriebazillen zur totalen Vernichtung des Impe-dins.	352
IV. Mitteilung: Ueber die Spezifität der mittels der Dysenteriekocktigensalbe in der Haut ausgelösten Opsonine.	360
V. Mitteilung: Ueber die Auslösung der antitoxischen Immunität im mittels der Dysenteriekocktigensalbe vorbehandelten Hautlokale.	367
VI. Mitteilung: Ueber die Gewinnung allgemeiner antitoxischer Immunität mittels der Vorbehandlung eines beliebigen Hautlokals durch äusserliche Applikation der Dysenteriekocktigensalbe.	384
VII. Mitteilung: Ueber die Spezifität der mittels der Dysenteriekocktigensalbe herbeigeführten allgemeinen Immunität, sowie der Vergleich der durch die subkutane Injektion des Dysenteriekocktogens erworbenen Immunität mit der durch die Kocktigensalbe ausgelösten.	417
Hamatani, G., Experimentelle Untersuchungen über den Einfluss der Nebennierenfunktion auf die Wundheilung.	476
Fujinami, S., Erforschung über die röntgenologischen Untersuchungsmethoden bei chirurgischen Magen-Darm-Erkrankungen nebst der Röntgenbild-Demonstration. (I)	503
Fukutomi, H., Erforschung über die in der Lunge erzeugten Antikörper gegen Tuberkelbazillen.	
IV. Mitteilung: Ueber das Schicksal der in der Lunge ausgelösten Antikörper gegen die Tuberkelbazillen.	637

V. Mitteilung: Ueber die Spezifität des in der Lunge ausgelösten, die Tuberkelbazillen voluminierenden Antikörpers.	644
Hamatani, G., Experimentelle Untersuchungen über den Einfluss der Neben- nierenfunktion auf die Wundheilung.	663
Hamatani, G., Experimentelle Untersuchungen über den Einfluss der Neben- nierenfunktion auf die Wundheilung. Nachtrag.	689
Ishitani, K., Feststellung der optimalen Röntgenbestrahlungszeit zwecks Ver- nichtung des Impedins.	
II. Mitteilung: Bei der Förderung der unspezifischen Phagozytose mittels der Antigene von Paratyphus-A-Bazillen; u.z. im zirkulierenden Blute normaler Meerschweinchen.	695
III. Mitteilung: Bei der Förderung der unspezifischen Phagozytose von Staphylokokken mittels der Antigene von Streptokokken.	705
Ishitani, K., Nachweis des Impedins in den Anavakzinen betreffend El-Tor- Vibrionen.	716
Ishitani, K., Vergleich des nativen Antigens von El-Tor-Vibrionen mit dem abgekochten in der Förderung der maximalen Phagozytose von Staphylo- kokken im zirkulierenden Blute normaler Meerschweinchen.	729
Yokoyama, M., Zwei Fälle von primären Sarkomen aus dem Ileumende. ...	744
Fujinami, S., Erforschung über die röntgenologischen Untersuchungsmethoden bei chirurgischen Magen-Darm-Erkrankungen nebst der Röntgenbild- Demonstration. (II)	756
Araki, S., A Supplemental Study of the Generation of Acute Hydronephrosis. I. Report: On the Excretion of Indigo-Carmine of Acute Hydronephrosis.	839
Chung, Chun-Mo, Die Stomata auf der peritonealen Fläche des Zwerchfells und ihre Beziehung zu den Lymphgefäßen.	876
Yamada, H., Akute gastritische Pylorusstenose infolge der ödematösen Tumorbildung.	884
Chung, Chun-Mo, Ueber die Kommunikation zwischen den Interzellularlücken des Lymphdrüsenparenchyms und den Lymphsinus sowie den Blutgefäßen.	935
Araki, S., A Supplemental Study of the Generation of Acute Hydronephrosis. II. On the so-called Resorption in Acute Hydronephrosis.	947
Toyoda, T., Drei Fälle von Osteogenesis imperfecta in einer Familie:	965
Chung, Chun-Mo, Ueber die Lymphgefäße des Omentum majus und Omen- tum minus beim Menschen und bei einigen Säugetieren.	1031
Araki, S., A Supplemental Study of the Generation of Acute Hydronephrosis. III. On the Effect of the Temporary Ligation of the Ureter on the Kidney.	1045
Araki, M., Ueber die aprioristische Verteilung opsonischer Substanzen in ver- schiedenen normalen Organen bzw. Geweben.	

I. Mitteilung: Bei der normalen Haut.	1059
II. Mitteilung: Der Unterschied zwischen der Epithelschicht und der Coriumschicht eines Hautlokals im Gehalt an Opsoninen.	1063
III. Mitteilung: Prüfung über die Opsoninnatur der Presssäfte der Epithelschicht und der Coriumschicht eines normalen Hautlokals.	1067
IV. Mitteilung: Prüfung über die normalen Rumpfmuskeln.	1073
V. Mitteilung: Prüfung über den Hoden.	1076
VI. Mitteilung: Prüfung über die normale Leber.	1079
VII. Mitteilung: Prüfung über die normale Milz.	1083
Iwaki, S., Nachweis des im Hühnermyxosarkom enthaltenen Impedins.	
I. Mitteilung: Bei der Förderung des gegen Typhusbazillen gerichteten Agglutinins im zirkulierenden Blute.	1087
II. Mitteilung: Ist das Impedin auch im normalen Hühnermuskel nachweisbar?	1102
III. Mitteilung: Ist das Impedin im normalen Hodengewebe nachweisbar?	1113
IV. Mitteilung: Ueber die Toxizität des Hühnermyxosarkoms.	1123
V. Mitteilung: Das Verhalten der Antigenavidität des nativen Extraktes von Hühnermyxosarkom zu seinem Erhitzungsgrade (Feststellung der optimalen Abkochungszeit des Nativextraktes für die maximale antigene Avidität).	1133
VI. Mitteilung: Sitz des Impedins im Hühnermyxosarkom.	1147
VII. Mitteilung: Das Verhalten des Abkochungsgrades betreffend den entfetteten Hühnermyxosarkomextrakt zu seiner Antigenavidität.	1154
VIII. Mitteilung: Das Verhalten der Antigenavidität der aus dem Hühnermyxosarkomextrakt in den Aether übergehenden Substanzen zu ihrer Abkochung.	1163
IX. Mitteilung: Die Aenderung der Antigenavidität einzelner Komponente von Hühnermyxosarkomextrakt bei der Siedehitze.	1171
Araki, C., Meningioma in the Pineal Region.	
A Report of Two Cases, Removed by Operation.	1181
Araki, C., Surgical Removal of Pineal Tumors.	
A Critical Review of the Literature.	1193
Fujinami, S., Ueber die Mucosafalten des Oesophagus und ihre röntgenologische Darstellungsmethode.	
	1207

Sachregister (Band XIII, 1937)

[本索引ハ歐文論文及歐文抄録ノミヨリ抄録ス]

A

Allgemeine antitoxische Immunität	384
Antitoxische Immunität	367
Anavakzin btr. El-Tor-Vibrionen	716
Agglutinin	
Anticoli—	77
gegen Typhusbazillen	1087
Arthigon u. Impedin	20
Antigene	
— von Streptokokken	705
— von Paratyphus-A-Bazillen	695
native — aus d. Tuberkelbazillen ...	317, 328
native — von El-Tor-Vibrionen	729
abgekochte — von El-Tor-Vibrionen	729
Antikörper	
spezifischer — in d. Lunge	717, 328
Antidysenterie —	340
in u. aus Haut	340
in d. Lunge	637
in d. Lunge gegen Tuberkelbazillen	317
gegen Tuberkelbazillen	637
Spezifität d. —	644
Antidysenterieantikörper	340
heterologer —	340
homologer —	340
Anticoliagglutinin u. Impedin	77
Antiphagozytäre Eigenschaft des Impedins ...	1
Antipferdeserumpräzipitin u. Impedin	92

C

Carotis	179
---------------	-----

D

Dysenteriekoktigen	417
Dysenteriekoktigensalbe	340, 367, 384, 417

E

El-Tor-Vibrionen	719
------------------------	-----

G

Gonokokkenvakzin	1
------------------------	---

H

Hühnermyxosarkom	
— u. Impedin	1087
Toxizität d. —	1123
Hühnermuskel u. Impedin	1102
Hühnermyxosarkomextrakt	
entfettete	1154
in d. Aether	1163
Hoden u. Opsonin	1076
Hodengewebe u. Impedin	1113
Hydronephrosis	
acute —	839, 947, 1045

I

Ileum	
Sarkom aus —	744
Impedin	
antiphagozytäre Eigenschaft des —	1
in Arthigon	20
in d. Anavaktin	716
d. Dysenteriebazillen	352
in sensib. Gono-Vakzin	29
in Gonokokkenvakzin	1
in Gonokokkenleiber	37
in Hodengewebe	1113
in Hühnermyxosarkom	1087, 1147
in Hühnermuskel	1102
on Myeloma	171
u. Röntgenstrahlen	695
in Tuberkelbazillen	61
in Tuberkulin	61, 77, 92
Immunität	
allgemeine antitoxische —	387
antitoxische —	367
K	
Koktigen	
d. Dysenteriebazillen	347
Dysenterie —	417
aus d. Tuberkelbazillen	317

aus d. Tuberkelbazillen	328
Koktigensalbe	
Dysenterie —	340, 360, 367, 384, 417
L	
Leber u. Opsonin	1079
Ligation of Ureter	1045
Lymphbahn	
Zwerchfell —	875
Lymphsinus u. Drüsen	935
Lymphgefäße des Omentum	1031
M	
Meningioma	1181
Milz u. Opsonin	1083
Myeloma	171
N	
Nebenniere u. Wundheilung ...	101, 476, 663, 689
Netz-Lymphgefäße	1031
O	
Oesophagus u. Röntgenbild	1207
Omentum-Lymphgefäße	1031
Osteogenesis imperfecta	965
Opsonin	
aprioristische	1059
bei der norm. Haut	1059
in d. Haut	360
in Epithelschicht u. Coriumschicht	1063
— natur in Haut	1067
in Hoden	1076
in Leber	1079
in Milz	1083
in Rumpfmuskeln	1073
Spezifität d. —	360
gegen Staphylokokken	340
Optimale Abkochungszeit	
d. nativen Antigens	12
d. Dysenteriebazillen-Kulturbouillon	352
d. Dysenteriebazillenaufschwemmung	340
d. Hühnermyxosarkomextraktes	1133
d. Tuberkulins	68

Optimale Röntgenbestrahlungszeit	695
--	-----

P

Paratyphus-A-Bazillen	695
Pineal Tumors	1193
Phagozytose	695, 705
Pylorusstenose	
akute gastritische —	884

R

Röntgenbestrahlungszeit u. Impedin	695
Röntgenbild-Demonstration	503
Röntgen-Untersuchungsmethode bei Magen-	
Darm-Erkr.	503, 756
Röntg. Darstellungsmethode	
d. Mucosafalten d. Oesophagus	1207
Rumpfmuskel u. Opsonin	1067

S

Sarkom aus d. Ileumende	744
Streptokokken	705
Sensibilisierte Gonokokkenvakzin	29
Spezifität d. Tuberkelbazillen Antikörpers	644
Spezifität d. Opsonine	360

T

Toxizität d. Hühnermyxosarkoms	1123
Tuberkulin	61
Tuberkulin u. Impedin	92
Tuberkelbazillen	
u. Antikörper	307
Antikörper gegen — in d. Lunge	637
u. Impedin	61
Typhusbazillen-Agglutinin	1087

U

Unterbindung d. Carotis	179
-------------------------------	-----

V

Volumination	307
--------------------	-----

W

Wundheilung u. Nebenniere ...	101, 476, 663, 689
-------------------------------	--------------------

Z

Zwerchfell-Lymphbahn	876
----------------------------	-----